

★中国の大国外交はバランスの行為

ケリー・ブラウン（英ロンドン大学キングス・カレッジ教授・ラウ中国研究所長）

習近平が仲間の党指導者グループに、中国の所説をもっと世界にむけて発信するよう促したのは **2013** 年だった。彼も仲間の指導部も、中国の所説が最善の方法では語られておらず、その利点が評価されていないと考えていた。この利点とは簡単なことで、彼らが意図していることが何で、それがどのようにすべての人のためになるかを発信することによって中国人の生活を安寧にすることだった。しかし相変わらず、事は複雑だ。

2013 年以来、中国は外部世界から脚光を浴びるような地位を享受できなかつたし、むしろ用心深くみられていた。そしていまその板ばさみの深まりに直面している。一方では重要で強力な国とみられたいが、同時に米国から脅威とみなされることは避けたい。6月**23**日の中央外事工作会議の演説で習はこの2つの問題に取り組んだ。それについて間違わないようにしよう。「大国」とは、この文脈で中国に最もふさわしい記述なのであって、この意味は、このタイトルを使う権利をもつ唯一の競争相手である米国と対等であることを示すものだ。

新華社通信によると、政治局常務委員全員が出席した会議のテーマは**2**つ。中国の国家再生の実現と、人類の進歩を促進し、未来を共有する共同体の建設に貢献することだった。第一のテーマについては、中国の復興とは共和国建設**100**周年にあたる**2049**年までに、完全に発達した国にするという党の第二の「百年目標」にげ論及したもので、近代の歴史で初めて、中国が再び安全で強力で、尊敬される国になることができると中国共産党が主張できる象徴的な時を意図している。中国が外部勢力によって植民地化され分断された屈辱の百年に最終的な決着をつけることを意図している。習の下で、このメッセージは国の内外にいつそう声高にまた明確に発信することができる。再生の時がきたので、今後は二度と再びいじめられることはない。これは習近平の政治スタイルを支える国家主義的で国民感情を結集する語り口である。

第二に促されているのは、今起きていることは中国だけでなく世界全体にとってもよいことだという考え方だ。中国は独自の方法で、覇権主義的でない協力的な方法で、国際社会の一員になることを目指している。中国は米国の地位を横取りしたり、米国の引き写しのような国にはならない。そういうメッセージを中国指導部は外部世界に受け入れてもらいたいと考えている。ただ独自の方法でそれをしているだけだ。そうすることで中国は、持続可能性とか自由貿易、地球の繁栄といった共通の課題に貢献し、真のステークホルダーであることを示そうとしている。中国の興隆は中国にとってだけでなく、人類にとってもよいことだ。これが中国の指導部が核心的メッセージとして外部世界に理解してもらいたいと思ってい

ることである。

中国外交の言葉には、国威発揚のための国家主義的なトーンと、外部世界に向けたより友好的なアピールの間の緊張がある。それは改革開放が始まった時から続いてきた。唯一の違いは、この緊張がより鋭くなったことである。それはあたかも、中国が突出して経済が大きくなればなるほど、中国の夢の歓喜のイメージと中国の権力と支配の時代の乖離が大きくなるごとくである。だからといって中国興隆のインパクトに怖れをいただいている地域や世界との間に寸断がもたらされるというわけではない。確かなことは、習近平の中国は大国でないなどということとはできないということだ。そんなことをしようとするのは不誠実で不真面目だ。外交官としての習の中にさえわれわれは、地位を求め、より自信を深めて、物質的な富がもたらす栄誉を知っている国をみるのである。

大国外交という言葉を使って自信を示しているようにみえるが、その根底では、中国の指導者たちは力の限界をプラグマチックに受け入れている。彼らは、中国が相互に結合した世界経済と地政学上のネットワークの一部であることをよく知っている。彼らはまた国内的にも、引き続き人口問題や環境、社会問題に取り組む必要があり、それに集中することができるかどうかは、安定した世界体制にかかっていることを知っている。トランプの登場で世界がより問題多く不安定になり始めた。このことは中国にとって残念なことなのだ。大国外交は常にバランスをもとめる行動である。問題は、中国が内外の要求について現在のデリケートな立場を維持することができるかどうか、それとも一方の方向に決定的にふみだしてしまいかどうかだ。少なくとも現在はバランスの継続を望んでいることを習演説は明確にしている。(了)

(原文英語 2018年8月12日 東アジアフォーラムに掲載)